

わかると快感!

Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

畿内・関東・九州地方の年貢の特色とは?

(東京大学 2010年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次の表は、平安時代終わりごろから鎌倉時代のころに、各地の年貢がどのような物で納められていたのかを、畿内・関東・九州地方について集計したものです。それぞれ、どのような特色が見られるか、表から読み取れることを説明しなさい。

畿内

国名	米	油	絹	麻	綿
山城	17	6		1	
大和	27	7	2		
河内	8	1			
和泉	2	1	1		1
摂津	13	2		1	

関東地方

国名	米	油	絹	麻	綿
相模				3	
武蔵			2	2	
上総	1	1		4	3
下総			1	1	1
常陸		1	5	1	2
上野				1	
下野			3	2	

九州地方

国名	米	油	絹	麻	綿
筑前	13				
筑後	6		3		1
豊前	1				
豊後	3				
肥前	4				
肥後	7		4		
日向	1				
大隅	1				
薩摩	3				



イラスト・瑞木匠

ちほう ちが 地方ごとの違い

表の数字は、その品物を年貢として納めた荘園の数です。荘園とは、奈良時代ころから現れた農園のことです。表を見てみると、畿内(現在の京都府南部・奈良県・大阪府・兵庫県南東部)は米と油が多く、関東は絹・麻・綿が多いですね。九州は圧倒的に米が多くなっています。なぜこのような違いがあるのでしょうか。

日本の稲作発祥の地である九州や、都がある先進地域の畿内では稲作がさかんに行われていた一方、稲作がまだ浸透していなかった関東では畑作が中心だった……という理由ももちろんありますが、見逃せないのはこれらが「年貢」

であるという点です。

輸送ルートに着目する

平安時代終わりごろから鎌倉時代ころには、荘園の多くは、京都に貴族たちの土地となっていました。各地の農民たちは荘園の管理者となり、そこで耕作を行い、収穫物の一部を京都の貴族に年貢として送っていたのです。

それでは、畿内・関東・九州から京都に年貢を運ぶルートを考えてみましょう。畿内は京都に近いので、米や油のような重いものでも運ぶことができますね。九州は京都からは離れていますが、瀬戸内海を使う海の輸送ルートがありますので、船を使って重いものを運ぶことができます。ところが関東は、東海地方までは海を使って運ぶことができるものの、その先は陸路で峠を越えないと京都にたどりつけません。牛や馬を使って運ぶ際、米などの重いものでは大変な負担になります。そのため、絹や麻などの軽いものを多く納めたのではと考えることができるのです。【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

年貢を納める際に作物自体を運ぶのは効率が悪いということで、次第に、輸送が楽なお金を使って納められるようになっていきます。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉育ち。